

オリジナル陶器作りに挑戦

～ふれあいの館・ふれあい親子陶芸教室～

甲 南ふれあいの館で5月15日、ふれあい親子陶芸教室が行われました。この日は、事前に応募のあった家族連れ17名が参加、ボランティアの方の指導を受けながら、家族一緒に粘土を積み重ねたり、伸ばしたり、模様を付けたりしながら、「ご飯茶碗や皿、花瓶など、思い思いの作品を作り上げました。出来上がった作品は、ボランティアの方により、焼き上げが行われます。参加の皆さんは、家族で作ったオリジナル作品を、お家で使うのが待ち遠しい様子でした。



▲親子がふれあい楽しく陶器作り

音楽を通じて人権を学ぶ

～新就職者激励会～

市 内企業・事業所に就職した新規学卒者を対象とした新就職者激励会が5月21日、忍の里プラザで開催され、56社から181名が参加しました。

中嶋市長はあいさつの中で、市内企業の現状に触れながら「企業になくはない人材として、一日も早く育ってくれることを願っています」と激励。また、新就職者を代表して（株）大阪特殊鋼管製造所滋賀工場の津波古岩さんが社会人としての抱負を力強く述べました。

その後の人権研修では、市人権推進課辻好明さんによるギターの弾き語りライブが行われ、参加者は音楽を通じて人権や差別について学んでいました。



▶辻さんによる人権ライブ



▲中嶋市長に抱負を述べる新就職者代表の津波古岩さん

朝宮小児童が稚アユ放流

～宮尻環境保全の会～

朝 宮小学校1、2年生11名が5月26日、信楽町宮尻の信楽川で稚アユ20キロを放流しました。魚の放流を通じて自然環境について学んでもらおうと、宮尻区の「宮尻環境保全の会」が約10年前から実施。地元の大宮神社前に集まった児童たちは、体長約10センチのアユをバケツに入れてもらい、手でつかんで感触を確かめた後、「大きく育ってね」と願いながら放流しました。



▲学芸員から信楽川にすむ生き物を見せてもらう児童たち

祖父母と一緒に万華鏡作り

～鮎河小学校～

鮎 河小学校で5月28日、全校児童26名が祖父母や老人クラブの人たちと一緒に万華鏡作りを楽しみました。

今回作ったのは、筒状の芯やフィルムケースなど身近にあるものを利用した万華鏡で、児童は祖父母らと協力して、部品を切ったり、板状の鏡を筒に差し込んだりして作業を進めました。

中に見える模様は、ケースに入れるビーズやカラーセロハンの色・量によって違い、個性の出るところ。それぞれが、思い通りのデザインになるように何度ものぞきながら調整し、満足いくものに仕上げました。

周りの人たちも完成した万華鏡をのぞき合いました。

「わあ、きれい」という声が上がっていました。



▲一緒に万華鏡を作る児童と祖父母ら

こんにやく栽培を体験

～多羅尾小学校～

信 楽町多羅尾地域で栽培される多羅尾こんにやく。弾力があり、シャキツとした食感が特徴で、地域の特産品として、古くから栽培されています。

多羅尾小学校でも、毎年、学校の畑で栽培されており、今年は5月28日に、種芋植えの作業が行われました。

この日は、地域におられる「農の匠」田中史由子さんの指導により、1、2年生5名が芋植えを体験。穴を掘り、種芋を植え、干草で畑を覆う作業を行いました。

また、田中さんから、多羅尾こんにやくの田楽のプレゼントがあり、児童は大喜び。給食の時間にいただいた児童は、自分たちが植えた芋で作ったこんにやくを早く食べたい様子でした。



▲こんにやくの種芋を植える児童

初泳ぎに歓声あがる

～市内小学校でプール開き～

6 月に入り、市内の各小学校でプール開きが行われ、プール学習がスタートしました。

2日に行われた土山小学校のプール開きでは、プールサイドに集合した全校児童に、校長先生が「これから約2か月間、目標をもって取り組んでください」と励ましのあいさつ。各学年の代表児童がそれぞれの目あてを発表した後、6年生による模範水泳が行われました。

この日は気温が上がり、プール日和となりましたが、それでも今年初めてのプールに、「冷たい」と第一声を上げた子どもたち。潜ったりしぶきをかけ合ったりしながら、久しぶりの水の感触を全身で楽しんでいました。



▲歓声をあげながら初泳ぎを楽しむ子どもたち